

| 学部等 | 学科等 | ①大学・大学院の設置理念 | | ②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院） | |
|--------------------------------|-------|---|--|------------------------|---|
| | | ①学科・専攻の設置理念 | | ②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻） | |
| ③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等/免許校種ごと） | | | | | |
| | | ①大学の「①設置理念」「②教員養成に対する理念・構想」 | <p>成蹊学園創立者中村春二が目指した教育理念である「自発的精神の涵養と個性の発見伸長を目指す真の人間教育」を踏まえ、知育偏重ではなく、人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育を実践し、確かな教養と豊かな人間性を兼ね備え、社会の発展のために献身的に貢献できる人材を輩出すること、学術の理論及び応用を教授研究し、自由な知の創造をはかり、もってその深奥を究めて文化の進展に寄与すること、地域社会に根ざしつつ、世界に開かれた教育・研究機関として、その成果を社会に還元することを通じて、人類の共存に寄与することを設置の理念とする。</p> <p>なお、成蹊学園では、2018年に成蹊学園サステナビリティ教育研究センターを設置するとともに、2019年には成蹊学園としてユネスコスクールの認定を受け、SDGsやESDの活動を推進することにより、大学のみならず併設する小学校、中学校及び高等学校とともに、文部科学省平成29年度告示小学校学習指導要領及び中学校指導要領の前文にも掲げられている「持続可能な社会の創り手」の育成に努めている。</p> | ②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院） | <p>本学は、「知育偏重ではなく人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育の実践」を唱える学園創立者中村春二の教育理念を受け、“桃李”が人を惹きつけるように、世人が慕って自然と集まり従う、徳を備えた人物の育成を理想とし、「個性の尊重と人格陶冶による豊かな人間性の形成」という建学の精神を掲げて中等教育から出発した成蹊学園の伝統を受け継ぐ大学である。この理念・精神を成蹊教育の原点として学生一人ひとりの個性を尊重し育てることを大切にしてきた。大切に育てられた個性や人格陶冶による豊かな人間性は、視野の広い教養と高度の専門的知識・技能に裏打ちされていることも不可欠である。</p> <p>設置する文系4学部（経済学部・法学部・文学部・経営学部）と理工学部において、そうした願いの下に教養教育と専門教育に取り組んでいる。またこれら5学部が同一キャンパスにあることから、成蹊教養カリキュラムの授業やクラブ・サークル活動を通していろいろな価値観をもった学生同士の接触・交流が広がっており、お互いの個性を尊重し合う社会性を育てている。</p> <p>こうした理念、環境のなかで徐々に醸成される豊かな人間性と能力は、社会的要請である「豊かな人間性を持ち生徒を惹きつける個性的な魅力をもつ資質・力量の高い教員」という要件に合致したものにほかならない。本学はまさに社会の期待に応えられる教師を育て、送り出すための好適な条件を備えていると言って良いであろう。このような利点を大いに活かし、本学は「開放制教員養成制度」の趣旨に則って、教師としての責任感や愛情を育み、教職に関する深い教養と教育的技能を教授する課程を大学教育の一領域に位置付け、全学科・研究科における専門教育に応じた教科で、教職課程を構築することとした。広い視野を持ち、高度の専門的知識・技能、科学的探究精神を身につけ、理論的考察力においても実践的教育活動においても、生徒・保護者ばかりでなく、日本国民や世界の人々の期待に応えて活躍できる教師を育成することを願うものであります。教育界に貢献できる教師を送り出すことは、大学としての社会的責任を果たすことになると考える。</p> |
| 理工学部 | 情報科学科 | ①学科等の「①設置理念」「②教員養成に対する理念・構想」 | <p>理工学部は、基礎教育を重視するとともに、伝統的な区分にとらわれない学際的な専門教育を充実させて、急速な技術革新、自然との共生、持続発展型社会の実現等の現代社会が抱える多くの複合的な諸問題に果敢に取り組める幅広い素養を持った人材を養成する。</p> <p>これら学部の理念・教育研究上の目的に即し、情報科学科としての具体的な教育研究上の目的（人材養成像）を次のように定める。</p> <p>教育研究内容をコンピュータ科学、データ数理の2分野に大別し、情報科学の基礎から応用まで深く教育することによって、変革の速度がますます大きくなる情報科学分野での先導的な役割を果たす人材を養成する。</p> <p>これらの教育研究上の目的、人材養成像等をもとに、理工学部の各学科では、次の要件をすべて満たし、かつ本方針を踏まえて作成された各学科の教育課程において所定の単位を取得した者に対して、「学士（理工学）」、もしくは「学士（工学）」の学位を授与する。情報科学科においては、基礎科目から専門科目までを系統的に学ぶことにより、次に掲げる能力を有するとともに、これらの学修を通じて幅広い教養、プログラミングに関する知識と技法及び情報科学分野の専門知識を身につけた学生に、学士（理工学）の学位を授与する。</p> | ②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻） | <p>情報科学科では、幅広い教養、プログラミングに関する知識と技法および情報科学分野の専門知識を持つ人材の育成を目的としている。その教育課程を生かし、変革の速度がますます大きくなる情報科学分野での先導的な役割を果たせる専門性を持ち、科学技術に対する多元的な視点や柔軟な科学センスを身につけ、課題を発見し解決する能力や発表力のある生徒を育てる教員を養成することを目標としている。</p> |
| | | ③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと） | <p>○中学校一種免許状（数学）</p> <p>中学校における数学の教員を目指す学生は、大学における数学の論理的な基礎の学びや具体的な数値を扱った演習を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深める。そして、プログラミングやデータサイエンスの基礎を知った上で、数学的な表現や処理の仕方を修得することで、実際に解決すべき問題や観測される事象を数理的に考察し表現する能力を高める。これにより、数学的活動の楽しさや数学の良さを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を身につける。</p> <p>数学の確かな知識と運用能力を具えた人材に対し、教職として必要な知識・教授能力を涵養させ、数学の基本知識と指導力を持った教員を輩出することを通して、現代社会に主体的に関わっていける資質を持った生徒を育てるとい社会貢献をすることが、情報科学科に中学校一種免許状の数学の課程を置く趣旨である。</p> | | |
| | | | <p>○高等学校一種免許状（数学）</p> <p>高等学校における数学の教員を目指す学生は、情報科学の基本を身につけた上での数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高める。また、社会の問題を解決するための数理モデルの活用についての経験と純粋に数学のモデルや証明に向き合うことの姿勢を学ぶことで、自らの生徒に数学のあり方を伝える力を養う。これらに加えて、社会における数学を学ぶ意義、数学の活用の範囲、情報技術との関係性に対する自分なりの意見を持ち、数学的な創造性の基礎を培うとともに、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。</p> <p>数学の高度な知識と運用能力を具えた人材に対し、教職として必要な知識・教授能力を涵養させ、数学の高度な専門知識と指導力を持った教員を輩出することを通して、現代社会に主体的に関わっていける資質を持った学生を育てるとい社会への貢献が、情報科学科に高等学校一種免許状の数学の課程を置く趣旨である。</p> | | |
| | | <p>○高等学校一種免許状（情報）</p> <p>高等学校における情報の教員を目指す学生は、情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、プログラミングやアルゴリズム構築および評価といった情報技術的な活動により、論理的な思考をもとに情報に関する科学的な見方や考え方を養う。そして、情報通信技術やメディア処理技術の学修を通して、社会の中での情報システムの位置付けをしっかりと捉え、情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報処理による問題解決と社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力および前向きな態度を身につける。</p> <p>情報科の確かな知識と運用能力を具えた人材に対し、教職として必要な知識・教授能力を涵養させ、情報の基本知識、高い専門知識に加えて確かな指導力を持った教員を輩出することを通して、日本における高度情報社会を支え、情報産業の創造と発展に寄与することのできるような学生を育てるとい社会への貢献が、情報科学科に高等学校一種免許状の情報の課程を置く趣旨である。</p> | | | |

様式第7号ウ 本来は認定課程ごとに作成するものであるが、まずは基本としてまとめて作成。今後別々にしていく。

<理工学部情報科学科> (認定課程: 中一種免(数学)、高一種免(数学))

(1) 各段階における到達目標

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|--|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | <p>前期では、教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、必修科目の「線形代数学Ⅰ」「微分積分学Ⅰ」「離散数学」などの履修により、情報科学科の学生として、大学生としての数学の基礎を固めるとともに、情報で用いる数学についての素養を備えることを目標とする。また学科の必修科目である「フレッシュャーズ・セミナー」の履修により、文章読解・作成能力、基礎的データ分析、図解力などといった大学における学術活動のための基礎的リテラシーを身につけ、論理的思考を養う土台作りをする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「線形代数学Ⅱ」「微分積分学Ⅱ」「確率統計」などの科目の履修を通して、指導する立場での数学に対する接し方を明確にすることを目標とする。</p> |
| 2年次 | 前期 | <p>前期では、教育の基礎的理解に関する科目等においては、1年次の概論的な科目から各論に進んだ科目を履修する。具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や教育方法、情報通信技術(ICT)を活用した教育、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などへの知識と基礎的技能を習得していることを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「幾何学」「アルゴリズムとデータ構造」を履修することによって、数学の一般的包括的科目の履修ができることとなり、数学科の教員として最低限必要な素養を身につけることとなる。それとともに、2年前期から4年にかけて代数学、解析学、確率・統計及びコンピュータに係る科目を履修することで、数学科の教科内容を確実に習得していることを到達目標とする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、教育の基礎的理解に関する科目等については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き、数学の各科目の専門性の高い科目を履修するとともに、2年後期から3年後期にかけて行う教科の指導法の科目のうち、2年後期に履修する「数学科教育法Ⅰ」で、数学科の学習指導要領をふまえながら、授業に必要な知識、教育実習までに修得すべき事項を理解することを目標とする。</p> |
| 3年次 | 前期 | <p>前期では、道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、道徳、総合的学習の時間や特別活動などの基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。また教科の指導法では、数学科教育法Ⅰに引き続き、「数学科教育法Ⅱ」で中学校数学科の教育方法に関する基礎知識を学びながら教える視点からの授業計画・準備について学び、「数学科教育法Ⅲ」では教材研究の手法を学ぶことで実践力の土台を身につけ、最終的に「数学科教育法Ⅳ」で学習指導案の作成、模擬授業を行うことで、教科に関する科目で培った数学の知識と教科の指導法ほか教育の基礎的理解、道徳、教育方法等で培った数学科の教育手法を「授業」という実践を使って確実なものとすることを目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修においては、2年次に記した科目の履修に加え、全員が「情報科学コース実験」を履修し、それぞれが専攻する各分野に係る具体的なテーマについて主体的な調査・分析を通して獲得した知識を総合的なものにし、グループワーク・発表を通して教員としても必要なコミュニケーション能力を養成することを到達目標とする。</p> |

| | | |
|-----|----|---|
| | 後期 | <p>後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。また、「教職特論演習Ⅰ」の履修で、卒業後の教員採用を視野に入れ、これまで学んできた教職、教科のみならず教員として必要とされる幅広い知識を得ることもできるようにする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあっては、前期の「情報科学コース実験」に引き続き「情報科学プロジェクト実験」を履修し、「情報科学コース実験」で身につけた能力を確実なものにするとともに、この時期に卒業研究を行う研究室の配属が決定するため、これまで得た数学をはじめとした理工学に係る基礎的、応用発展的な知識や課題解決能力を卒業研究の取組みに生かし、かつ、教員としての資質・実践力を養成することを到達目標とする。</p> |
| 4年次 | 前期 | <p>教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」または「教育実習(高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業をはじめとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあっては、これまで履修できなかった科目の履修とともに、「輪講」「卒業研究」に取り組み、学修の集大成として技術者としての研究課題を深く探求する能力を養成することを到達目標とする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあっては、「卒業研究」での論文・最終レポートの完成等を通して、学部の学修の集大成を行うとともに、学部卒業および教員として必要な能力を完成させることを到達目標とする。</p> |

様式第7号ウ 本来は認定課程ごとに作成するものであるが、まずは基本としてまとめて作成。今後別々にしていく。

<理工学部情報科学科> (認定課程:高一種免(情報))

(1)各段階における到達目標

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|--|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | <p>前期では、教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、情報の免許状取得というよりは理工学部での学びの基礎として、全学区共通科目や学科必修科目の「線形代数学Ⅰ」「微分積分学Ⅰ」「離散数学」などの履修により、情報科学科の学生として、大学生としての数学の基礎を固めるとともに、今後情報科の免許状を取得するにあたって必要な「情報化社会と職業」「情報に関する職業人としての在り方」に関する観点を身につけることを到達目標とする。また学科の必修科目である「フレッシュャーズ・セミナー」の履修により、文章読解・作成能力、基礎的データ分析、図解力などといった大学における学術活動のための基礎的リテラシーを身につけ、論理的思考を養う土台作りをする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、情報の教科に関する専門的事項のうち特に不可欠となるコンピュータの基礎、プログラミング科目および情報社会に携わる身としてのリスク対策、倫理観などを身につけることを到達目標とする。</p> |
| 2年次 | 前期 | <p>前期では、教育の基礎的理解に関する科目等においては、1年次の概論的な科目から各論に進んだ科目を履修する。具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や教育方法、情報通信技術(ICT)を活用した教育、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などへの知識と基礎的技能を習得していることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項の科目の履修においては、1年次で学んだ基礎的科目の知識をふまえて、コンピュータ・情報処理の知識の充実を図るとともに、教科に関する一般的包括的内容の学びを通して、高等学校情報の教員として必要な素養を身につけていくことを目標とする。また教科の指導法では、「情報科教育法」を集中的に受講することで、情報科を担当する教員として必要となる科目に関する知識、情報機器を活用した授業の展開方法、教科「情報」の授業を運営するための知識、能力を養うことを目標とする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、教育の基礎的理解に関する科目等については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。</p> <p>教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き情報の教科における一般的包括的内容ノリ週により知識を積み重ねるとともに、これから4年次にかけて、情報の教科の各区分においてより個別具体的な専門的事項について学び、高等学校情報の教員として、幅広くかつ専門的な素養を身につけることを目標とする。</p> |
| 3年次 | 前期 | <p>前期では、道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、道徳、総合的学習の時間や特別活動などの基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。また教科の指導法では、数学科教育法Ⅰに引き続き、「数学科教育法Ⅱ」で中学校数学科の教育方法に関する基礎知識を学びながら教える視点からの授業計画・準備について学び、「数学科教育法Ⅲ」では教材研究の手法を学ぶことで実践力の土台を身につけ、最終的に「数学科教育法Ⅳ」で学習指導案の作成、模擬授業を行うことで、教科に関する科目で培った数学の知識と教科の指導法ほか教育の基礎的理解、道徳、教育方法等で培った数学科の教育手法を「授業」という実践を使って確実なものとすることを目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修においては、学科専門科目、情報の教科に関する専門的事項の科目の履修を続けるとともに、全員が「情報科学コース実験」を履修し、それぞれが専攻する各分野に係る具体的なテーマについて主体的な調査・分析を通して獲得した知識を総合的なものにし、グループワーク・発表を通して教員としても必要なコミュニケーション能力を養成することを到達目標とする。</p> |

| | | |
|-----|----|---|
| | 後期 | <p>後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。また、「教職特論演習Ⅰ」の履修で、卒業後の教員採用を視野に入れ、これまで学んできた教職、教科のみならず教員として必要とされる幅広い知識を得ることもできるようにする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあっては、前期の「情報科学コース実験」に引き続き「情報科学プロジェクト実験」を履修し、「情報科学コース実験」で身につけた能力を確実なものにするとともに、この時期に卒業研究を行う研究室の配属が決定するため、これまで得た数学をはじめとした理工学に係る基礎的、応用発展的な知識や課題解決能力を卒業研究の取組みに生かし、かつ、教員としての資質・実践力を養成することを到達目標とする。</p> |
| 4年次 | 前期 | <p>教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」または「教育実習(高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業をはじめとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあっては、これまで履修できなかった科目の履修とともに、「輪講」「卒業研究」に取り組み、学修の集大成として技術者としての研究課題を深く探求する能力を養成することを到達目標とする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。</p> <p>学科カリキュラムの履修にあっては、「卒業研究」での論文・最終レポートの完成等を通して、学部の学修の集大成を行うとともに、学部卒業および教員として必要な能力を完成させることを到達目標とする。</p> |

様式第7号ウ(教諭)

<理工学部情報科学科>(認定課程:中一種免(数学)、高一種免(数学)、高一種免(情報))

(2)具体的な履修カリキュラム

| 履修年次 | | 具体的な科目名称 | | | | | | |
|------|----|--------------------------------|------|---------------|-------------------|-----------------|---|--|
| | | 各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等 | | | 教科に関する専門的事項に関する科目 | 大学が独自に設定する科目 | 施行規則第66条の6に関する科目 | その他教職課程に関連のある科目 |
| 年次 | 時期 | 科目区分 | 必要事項 | 科目名称 | | | | |
| 1年次 | 前期 | 2 | C | 教職論 | 線形代数学 I | | College English (Listening & Speaking) I | College English (Reading & Writing) I |
| | | 2 | B | 教育原理 | 微分積分学 I | | 情報基礎 | フレッシュャーズ・セミナー |
| | | 2 | E | 教育心理学 | 離散数学 | | 日本国憲法 | Pythonプログラミング基礎 |
| | | | | | 情報と職業 | | | 数学演習 I |
| | | | | | | | | |
| | 後期 | 2 | D | 学校と社会 | 線形代数学 II | | College English (Listening & Speaking) II | College English (Reading & Writing) II |
| | | 3 | L | 生徒指導論 | 微分積分学 II | | 健康・スポーツ演習 B | 数学演習 II |
| | | 3 | N | 進路指導論 | 確率統計 | | | |
| | | | | | 情報社会倫理 | | | |
| | | | | | C++プログラミング I | | | |
| 2年次 | 前期 | 2 | F | 特別支援教育概論 | 幾何学 | 学校経営と学校図書館 | | College English (Integrated Skills) I |
| | | 3 | K | 教育方法論 | アルゴリズムとデータ構造 | | | 実践日本語表現 |
| | | 3 | M | 教育相談 | 微分方程式 | | | |
| | | | | | 情報科教育法 I | 確率論 | | |
| | | | | | 情報科教育法 II | C++プログラミング II | | |
| | | | | | | C++プログラミング実験 II | | |
| | | | | | | コンピュータシステム | | |
| | 後期 | 2 | G | 教育課程論 | 基本情報処理概論 | 学習指導と学校図書館 | | College English (Integrated Skills) II |
| | | 3 | R | ICT活用の理論と方法 | 代数学 | | | 実践話し方講座 |
| | | | | | 数学科教育法 I | データベース | | |
| | | | | | | 情報通信 | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 3年次 | 前期 | 3 | I | 総合的な学習の時間の指導法 | 画像処理 | 読書と豊かな人間性 | | 情報科学コース実験 |
| | | 3 | H | 道德教育の指導法 | | | | |
| | | | | | 数学科教育法 II | | | |
| | | | | | 数学科教育法 IV | | | |
| | 後期 | 3 | J | 特別活動の指導法 | 情報セキュリティ | 教職特論演習 I | | 輪講 I |
| | | 4 | | 教育実習論 | メディア技術史 | 情報メディアの活用 | | 情報科学プロジェクト実験 |
| | | | | | 数学科教育法 III | | | |
| 4年次 | 前期 | 4 | | 教育実習(中・高) | | 教職特論演習 II | | 卒業研究 I |
| | | | | | | | | 輪講 II |
| | 後期 | 4 | | 教職実践演習(中・高) | | 学校図書館メディアの構成 | | 卒業研究 II |